

～教職員130名が集い、未来の学校を語り合う～

8月1日（金）防災交流館ミモーロにて、御所市内すべての小・中学校から約130名の教職員が参加し、「新しい学校づくり」に向けたワークショップを開催しました。これは、先日行われた子どもたちによるワークショップに続く第2弾の取組であり、教職員一人一人が「新しい学校で、どのような子どもたちを育てたいか」を真剣に考える場となりました。

ワークショップの冒頭では、ミモーロに展示された5・6年生の作品を参加者全員で鑑賞しました。子どもたちの自由で前向きな発想に、「子どもたち自身が未来をつくろうとしていることを実感した」という声が多く聞かれました。

グループワークでは、次のようなテーマをもとに活発な意見交換が行われました。

- ・これからの学校で、どのような子どもを育てていきたいか
- ・教職員としてどのような関わり方が求められるか
- ・新しい学校施設に期待すること
- ・働きやすい職場環境とはどのようなものか

「人とつながる力や、自分らしく生きる力を育てたい」「学びを楽しめる子どもを育てたい」という願いや、「子どもの多様性に応じた柔軟な教え方ができるような教室配置にしてほしい」「小・中の教員がもっと自然に協力し合えるような職員室のつくりにしてはどうか」「ICTの整備と同時に、教職員の研修やサポート体制も必要」など、教育内容・施設環境・働き方の面にわたって多様な意見が出されました。

また、「再編には期待だけでなく不安もある」「今の学校文化をどう活かすかも話し合いたい」など、率直な声も共有されました。

今回のワークショップは、単なる意見交換の場ではなく、教職員同士がつながり、未来をともに描く第一歩となりました。

これからの学校づくりには、子ども・保護者・地域・教職員、すべての人の声と力が必要です。

今後もこうした対話の場を継続し、みんなで「一つの学校プロジェクト」を進めていきます。

